

明 細 書

発明の名称 断熱箱体

発明の分野

この発明は、例えば自動製氷機等の断熱箱体に関するものである。

関連技術の説明

自動製氷機に採用される断熱箱体は、図 15 に示す如く、前方および上方に開放する貯氷庫 10 の幅方向に離間する左右の両側壁外部に、側板 11, 11 を配設して構成された箱本体 12 を備え、該箱本体 12 の頂部に水平に配置した取付枠に懸吊した製氷ユニット(何れも図示せず)が、貯氷庫 10 の内部上方に臨むよう構成される。各側板 11 の前部には、平断面においてコ字状を呈するコ字状部 11 a が形成されると共に、該側板 11 の上端縁には内側(貯氷庫側)に折曲された上折曲部 11 b が形成され、コ字状部 11 a を貯氷庫 10 の対応する側壁前部に嵌合すると共に、上折曲部 11 b を貯氷庫 10 の対応する側壁上面に載置することで両者の位置決めがなされるようになっている。

前記箱本体 12 の前部には、その頂部から所定高さだけ下方の位置に、該箱本体 12 における左右の側壁 12 a, 12 a (貯氷庫 10 の側壁と側板 11 とで構成される壁)の内方への変形等を防止して、箱本体 12 の前方開口部 12 b を確保する前枠 13 が配設されている。この前枠 13 は、図に示す如く、後方(貯氷庫側)に開放する箱状に形成されると共に、その内部に別体に形成された断熱材 14 が挿入されるようになっている。そして、この前枠 13 は、前記左右の側板 11, 11 におけるコ字状部 11 a, 11 a の内側に両側面を当接した状態で、各側面を対応するコ字状部 11 a にカシメ固定した後に、その内部に前記断熱

材14が挿入されることで箱本体12に取付けられる。なお、前枠13は、箱本体12の前方開口部12bを開閉自在に閉成する扉(図示せず)に配設したマグネットの磁力吸着面として機能するように、適宜の金属材料から構成されている。

また前記箱本体12の前部には、前記前枠13の配設位置より上方の前方開口部12bを覆うフロントパネル15が着脱可能に配設される。このフロントパネル15は、図に示す如く、後方(貯氷庫側)に開放する箱状に形成されると共に、その内部に別体に形成された断熱材16が挿入されるようになっている。またフロントパネル15の後部には、幅方向の両端部近傍に係合孔15a、15aが形成され、両係合孔15a、15aを、前記箱本体12の側壁12a前端(側板11のコ字状部11a前面)に配設したネジカラー17、17に引掛けることで、該フロントパネル15の箱本体12に対する位置決めがなされる。このフロントパネル15には、後部下端縁に位置決め片15bが垂設され、該位置決め片15bを前記前枠13の前面に当接した状態で、該位置決め片15bをネジ18を介して前枠13に固定するよう構成される。なお、フロントパネル15の後端上縁には、後述する天板19の被係合部19bに係合可能な係合部15cが形成されている。

前記箱本体12の上方開口部12cを開成する天板19は、下方(貯氷庫側)に開放する箱状に形成されると共に、その内部に別体に形成された断熱材20が挿入されるようになっている。この天板19の開口寸法は、箱本体12の外形寸法より僅かに大きく設定され、該天板19を箱本体12上部に被せた状態で、その両側面が対応する左右の側板11、11にネジ21を介して夫々固定される。なお、天板19の後部には、箱本体12の後面に取付けられる掛け金22に係合可能な係合孔19aが形成されると共に、その前部には前記フロントパネル15の係合部15cに係合可能な被係合部19bが形成されている。すなわち、

天板 19 の係合孔 15 a を掛け金 22 に引掛けると共に、被係合部 19 b をフロントパネル 15 の係合部 15 c に係合した状態で、該天板 19 を箱本体 12 上部に被せて両側面をネジ止め固定するよう構成される。

前述した断熱箱体では、金属材料から形成された左右の側板 11, 11 のコ字状部 11 a, 11 a や、前枠 13 が貯氷庫 10 内に臨んでいるため、コ字状部 11 a, 11 a の開放端や前枠 13 における磁力吸着面に発生した錆が庫内に落ちて不衛生となる問題がある。またフロントパネル 15 は、箱本体 12 の両側壁 12 a, 12 a に対して前後に面接触しているだけなので、その間に隙間を生じ易く、該隙間から汚れた水、油、埃、虫等が庫内に侵入するおそれがあった。更には、前記前枠 13、フロントパネル 15 および天板 19 に配設される断熱材 14, 16, 20 は庫内側に露出しており、その露出面にゴミが溜り易く、かつ水を含み易いため、菌が繁殖し易くなって不衛生となる問題が指摘される。なお、断熱材 14, 16, 20 を清掃しようとするれば、そのカスが庫内に落ちるおそれがあり、清掃により清浄に保つのは困難であった。

前記製氷ユニット等のメンテナンス等に際しては、前記箱本体 12 からフロントパネル 15 を取外す必要があるが、フロントパネル 15 の係合部 15 c が天板 19 の被係合部 19 b に係合しているため、フロントパネル 15 の取外しに際しては天板 19 も取外す必要があり、メンテナンスに要する作業時間が長くなる欠点があった。そして、例えばカウンターの下方に自動製氷機を設置している場合には、そのままの状態ではフロントパネル 15 を取外すことができないため、製氷機をカウンターの下方から引出す作業を必要として手間が掛かる難点も指摘される。更には、箱本体 12 からフロントパネル 15 を取外しても、前記前枠 13 が箱本体 12 にカシメ固定されているために、メンテナンス作業の邪魔となる欠点もある。

発明の要約

本発明は、前述した従来の技術に内在している前記欠点に鑑み、これを好適に解決するべく提案されたものであって、メンテナンスが容易で常に衛生的に保ち得る断熱箱体を提供することを目的とする。

前記課題を克服し、所期の目的を好適に達成するため、本発明に係る断熱箱体は、

前方に開放する箱本体の前部にフロントパネルを着脱可能に配設した断熱箱体であって、

前記箱本体の前方開口部を覆うパネル本体部と、前記前方開口部を画成する箱本体の左右側壁の内方への移動を規制する前枠部とを合成樹脂により一体的に中空成形し、その内部に発泡断熱材を充填発泡してフロントパネルを構成したことを特徴とする。

図面の簡単な説明

図1は、本発明の好適な実施例に係る断熱箱体の要部を分解して示す概略斜視図である。

図2は、実施例の断熱箱体が採用される自動製氷機の正面図である。

図3は、実施例に係る自動製氷機の一部切欠き側面図である。

図4は、実施例に係る断熱箱体の本体の正面図である。

図5は、実施例に係る断熱箱体の本体の平面図である。

図6は、実施例に係るフロントパネルの正面図である。

図7は、実施例に係るフロントパネルの側面図である。

図8は、実施例に係るフロントパネルの平面図である。

図9は、実施例に係るフロントパネルの縦断側面図である。

図10は、実施例に係る天板の底面図である。

図 1 1 は、実施例に係る天板の縦断側面図である。

図 1 2 は、実施例に係る断熱箱体の要部縦断側面図である。

図 1 3 は、実施例に係る箱本体、フロントパネル、天板の取付け部位を切欠いて示す概略斜視図である。

図 1 4 は、実施例に係る箱本体、天板、後カバーの取付け部位を切欠いて示す概略斜視図である。

図 1 5 は、従来技術に係る断熱箱体の要部を分解して示す概略斜視図である。

好適な実施例の詳細な説明

次に、本発明に係る断熱箱体につき、好適な実施例を挙げて、添付図面を参照しながら以下説明する。なお実施例では、自動製氷機の断熱箱体を例示する。

(全体構成について)

図 1 ～図 3 に示す如く、実施例の断熱箱体 2 3 は、前方および上方に開放する箱本体 2 4 と、該箱本体 2 4 の前部上方に着脱可能に配設されるフロントパネル 2 5 と、該フロントパネル 2 5 より下方において箱本体前部に開閉自在に配設される扉 2 6 と、該箱本体 2 4 の上部に着脱可能に配設される天板 2 7 とから基本的に構成される。なお、箱本体 2 4 の頂部に水平に配置した取付枠 2 8 に懸吊した製氷ユニット 2 9 が、箱本体内部上方に臨むと共に、該製氷ユニット 2 9 の下方に排水皿 3 0 が配設されるようになっている。また箱本体 2 4 の後面には、後述する外線や冷媒管等を覆う後カバー 3 1 が配設される。

(箱本体について)

前記箱本体 2 4 は、前方および上方に開放する断熱構造の貯氷庫 3 2 の幅方向に離間する左右の両側壁外部に、左右の側板 3 3, 3 3 を配設して構成され、貯氷庫 3 2 の両側壁および側板 3 3, 3 3 からなる一対の側壁 2 4 a, 2 4 a の間

に、前方開口部 2 4 b および上方開口部 2 4 c を画成している。貯氷庫 3 2 の上面には、図 4 および図 5 に示す如く、両側壁外端縁から所定長さだけ内側(庫内側)までの部分を除く部位に上方に突出する上突部 3 2 a が突設されると共に、両側壁前面には、上端から所定高さ位置まで前方に突出する前突部 3 2 b が上突部 3 2 a と連続的に形成されている。また貯氷庫 3 2 の後壁には、図 4 において左側に偏った位置に、上方に開放する凹部 3 2 c が形成され、該凹部 3 2 c を介して前記製氷ユニット 2 9 から導出する外線や冷媒管等が外方に引出されるよう構成される。なお、この凹部 3 2 c には、図 1 4 に示す如く、ゴムや合成樹脂等の弾性を有する材料により後方に開放する箱状に形成されたカバー体 3 4 が嵌挿されると共に、該カバー体 3 4 には断熱材 3 5 が挿入されて断熱性を確保するようになっている。カバー体 3 4 および断熱材 3 5 には前後に連通する通孔 3 6 が穿設されており、該通孔 3 6 を介して外線や冷媒管等が外部に引出される。またカバー体 3 4 の庫内側に臨む左右端縁および下端縁にフランジ 3 4 a が一体的に形成され、該フランジ 3 4 a を貯氷庫 3 2 の内面に当接することで、該カバー体 3 4 の脱落防止および凹部 3 2 c とカバー体 3 4 との間に生ずる隙間を遮蔽するよう構成される。

前記各側板 3 3 は、薄板材の 4 辺を夫々内側に向けて直角に折曲形成して構成され、その上折曲部 3 3 a は、前記貯氷庫 3 2 の上突部 3 2 a が形成されていない側壁上面に載置されると共に、その開放端を上突部 3 2 a に突き当てて位置決めされている。また側板 3 3 の前折曲部 3 3 b は、貯氷庫 3 2 の前突部 3 2 b と対応する部位が幅狭に設定されて、該前突部 3 2 b が形成されていない側壁前面に当接されると共に、その開放端を前突部 3 2 b に突き当てて位置決めしている。なお、前折曲部 3 3 b における貯氷庫 3 2 の前突部 3 2 b より下方の前面に当接する部位は、図 1 3 に示す如く、貯氷庫 3 2 の側壁より僅かに短かい幅寸法に設定されると共にハゼ折りされて、その開放端が貯氷庫内に

臨まないよう構成される。すなわち、実施例の側板 33 では、その開放端が貯氷庫 32 内に臨まないよう構成され、開放端で発生した錆が庫内に落ちないようにしている。なお、前折曲部 33b をハゼ折りすることで、該側板 33 の強度向上が図られる。

(フロントパネルについて)

前記箱本体 24 における前方開口部 24b の一部を覆うフロントパネル 25 は、発泡断熱材 37 を充填させる充填空間を内部画成するよう中空に合成樹脂成形されたものであって、外部に発泡断熱材 37 が露出しない構造で、十分な断熱性を確保すると共に、常に衛生的に保ち得るよう構成される。図 6～図 9 に示す如く、略矩形状に形成されたフロントパネル 25 のパネル本体部 38 の上面には、その前端および幅方向両側端から所定長さだけ内側の部位に上方に突出する段部 39 が突設されると共に、該段部 39 の幅方向略中央に、前記天板 27 の前部に形成された被係合部 52 (後述) に係脱可能に係合する係合部 40 が形成されている(図 12 参照)。なお、前記段部 39 を天板 27 の補強リブ 50 (後述) で覆うことで、該フロントパネル 25 と天板 27 との隙間から、汚れた水、油、埃、虫等が庫内に侵入するのを防止するようになっている。

前記パネル本体部 38 の前面下部には、図 7 に示す如く、上方から下方に向かうにつれて後側(庫内側)に傾斜する傾斜部 38a が形成されると共に、該傾斜部 38a の下端から後方に略水平に延出する水平部 38b の後端には取付部 38c が垂下形成されている。この取付部 38c には、幅方向に離間して一対の通孔 41, 41 が穿設されており、各通孔 41 に前方から挿通したネジ 42 (図 13 参照) を、前記箱本体 24 の対応する側壁 24a (側板 33 の前折曲部 33b) に形成したネジ孔 43 に螺挿することで、当該フロントパネル 25 が箱本体 24 に着脱可能に取付けられるよう構成される。なお、箱本体 24 にフロントパネル 25 が取付けられた状態で、図 12 に示す如く、前記傾斜部 38a が扉

26の略真上に臨み、該扉26の上部に形成された把手として機能する前方リブ55(後述)に、前側から容易に手指を掛け易くしている。また傾斜部38aは、フロントパネル25と扉26との間に生ずる隙間を最少限に抑え、外観的デザインを向上するのに寄与する。

前記傾斜部38aと水平部38bとの連設角部は、上水切り部38dとして機能し、パネル本体部38の前面に付着して流れる水滴を、該上水切り部38dを介して、扉26の溝部57(後述)に落下させるよう構成される。また前記取付部38cは、扉26を閉成した状態では該扉26により隠れて前側から見えないよう設定され、ネジ止め部が見えることにより外観的な見栄えが劣るのを防ぐようになっている。前記取付部38cの下側には、その前面から後方に段状となるよう当接部38eが垂設され、該当接部38eの前面に扉26に配設されるドアパッキン54(後述)が当接するよう構成される。なお、取付部38cと当接部38eとの連設角部が、下水切り部38fとして機能するよう構成され、取付部38cを流れる水滴をドアパッキン54上に落下させて、庫内に流入しないようにしている。また当接部38eは、フロントパネル25を箱本体24に取付けた際には、両側壁24a,24aの間に臨んで、該側壁24a,24aが内方へ変形(移動)するのを防止すると共に、フロントパネル25の箱本体24への位置決めを行なう機能を兼ねる。

前記パネル本体部38の両側面には、図8に示す如く、後端から前端に向かうにつれて内側に傾斜するテーパが付与され、該本体部38の前端面の幅寸法を、断熱箱体23の箱本体24の幅寸法より短くなるよう設定される。すなわち、例えば断熱箱体23(自動製氷機)の左右両側面を壁面や他の厨房機器等に密着して設置した場合であっても、該フロントパネル25の両側面と壁面や他の厨房機器等との間に隙間を画成して箱本体24からの取外しを容易に行ない得るようになっている。なお、パネル本体部38の後端面の幅寸法は、両側壁

24a, 24aの外側端間の幅寸法と同一に設定され、両側壁24a, 24aで画成される前方開口部24bを覆い得るよう構成される。またパネル本体部38の前面所定位置には、社名銘板44を貼付けるための段落し部45が設けられ、該段落し部45に貼付けた社名銘板44が前方に突出して外観的デザインが低下するのを防止するよう構成してある。

前記パネル本体部38の後面側には、その幅方向の両端部近傍に、前記貯氷庫32に形成した前突部32b, 32bを収納する収納凹部46, 46が形成されており、収納凹部46と前突部32bとの嵌合構造により、当該部位における汚れた水、油、埃、虫等の庫内への侵入を防止するよう構成される。

前記パネル本体部38の後面下部には、前記箱本体24の左右側壁24a, 24aの離間寸法(前方開口部24bの幅寸法)と略同一の幅寸法に設定された前枠部47が一体成形されており、当該フロントパネル25は、前枠部47を箱本体24の左右の側壁24a, 24aの間に臨ませた状態で該本体24に取付けられる。すなわち、この前枠部47は、箱本体24の両側壁24a, 24aが内方へ変形(移動)するのを防止すると共に、フロントパネル25の箱本体24への位置決めを行なうべく機能する。また前枠部47の下面には、前記排水皿30の前端がネジ止め固定されるようになっている(図3参照)。なお、前枠部47の上面には、図7に示す如く、前端から後端に向かうにつれて下方傾斜する傾斜面47aが形成され、パネル本体部38の後面を流れる水滴を該傾斜面47aを介して排水皿30に案内して、該水滴が庫内に貯留されている氷塊等に付着するのを防止するようにしてある。

なお、フロントパネル25の表面には、シボ加工が施されると共に、各コーナー部はR形状とされ、外観的デザインを向上すると共に、掃除が容易な構造となっている。また、前記パネル本体部38に一体的に成形される各部位が補強リブとして機能し、該フロントパネル25のブロー成形時における反りや樹脂

の収縮を最少限に抑え、かつ必要強度を確保するよう構成される。更には、パネル本体部 3 8 や前枠部 4 7 等に対する発泡断熱材 3 7 の注入孔やパーティン
グラインの配置に関しては、成形成、発泡性、作業性を考慮すると共に、外観
的な見栄えが劣ることのないよう設定される。

(天板について)

前記箱本体 2 4 の上方開口部 2 4 c を覆う天板 2 7 は、発泡断熱材 4 8 を充
填させる充填空間を内部画成するよう中空に合成樹脂成形されたものであって、
外部に発泡断熱材 4 8 が露出しない構造で、十分な断熱性を確保すると共に、
常に衛生的に保ち得るよう構成される。図 1 0 および図 1 1 に示す如く、略矩
形状に形成された天板本体部 4 9 における下面側の全外周縁に、補強リブ 5 0
が一体的に形成され、当該天板 2 7 の必要強度の確保と、ブロー成形時の反り
や樹脂の収縮を防止している。なお、天板本体部 4 9 の両側面には、下端から
上端に向かうにつれて内側に傾斜するテーパが付与され、該本体部 4 9 の上端
面の幅寸法を、断熱箱体 2 3 の箱本体 2 4 の幅寸法より短くなるよう設定さ
れる(図 2 参照)。すなわち、前記フロントパネル 2 5 と同様に、断熱箱体 2 3 の
左右両側面を壁面や他の厨房機器等に密着して設置した場合であっても、該天
板 2 7 の両側面と壁面や他の厨房機器等との間に隙間を画成して箱本体 2 4 か
らの取外しを容易に行ない得るようになっている。また、天板本体部 4 9 の表
面にシボ加工が施されると共に、各コーナ部には R 形状が付され、外観的デザ
インを向上すると共に、掃除が容易な構造となっている。

前記後側の補強リブ 5 0 の所定位置には、取付部材 5 1 が一体的に形成され、
該取付部材 5 1 には係合孔 5 1 a が形成されている。前記箱本体 2 4 に配設さ
れる後カバー 3 1 の上部には、図 1 4 に示す如く、前記取付部材 5 1 と対応す
る位置に引掛け片 3 1 a が形成され、該引掛け片 3 1 a に天板 2 7 の係合孔
5 1 a を係合することで、該天板 2 7 の後部側の位置決めを行なうよう構成さ

れる。

前記天板本体部 4 9 の下面略中央には、図 1 0 および図 1 1 に示す如く、上方に凹む収納スペース 4 9 a が形成され、箱本体 2 4 に天板 2 7 を配設した際に、該収納スペース 4 9 a に前記製氷ユニット 2 9 の一部や外線等が収納されるよう構成される。なお、収納スペース 4 9 a が形成されていない下面が、前記取付枠 2 8 の上面に近接し、庫内と取付枠内との空気の流れを遮断するようになっている。また天板本体部 4 9 の前部下面には、前記フロントパネル 2 5 の係合部 4 0 を収納する前部スペース 4 9 b が上方に凹むよう形成されると共に、該スペース 4 9 b の前部に係合部 4 0 が係脱可能に係合する被係合部 5 2 が形成される。すなわち、天板 2 7 は、その天板本体部 4 9 の後部を、前記後カバー 3 1 に係合すると共に、その前部をフロントパネル 2 5 に係合することで、箱本体 2 4 に取付けられる。なお、天板 2 7 の被係合部 5 2 に対してフロントパネル 2 5 の係合部 4 0 は、該天板 2 7 を箱本体 2 4 に配設して上方開口部 2 4 c を覆ったままの状態に係脱可能に構成されて、箱本体 2 4 に対してフロントパネル 2 5 を着脱し得るよう構成される(図 1 2 参照)。

前記箱本体 2 4 に天板 2 7 を取付けた状態で、図 1 3 に示す如く、前記補強リブ 5 0 の前部が、前記フロントパネル 2 5 の段部 3 9 を覆うと共に、該補強リブ 5 0 の両側部が、前記貯氷庫 3 2 の上突部 3 2 a を覆うことで、天板 2 7 とフロントパネル 2 5 および箱本体 2 4 との隙間から、汚れた水、油、埃、虫等が庫内に侵入するのを防止するよう構成される。また、天板本体部 4 9 に対する発泡断熱材 4 8 の注入孔やパーティングラインの配置に関しては、成形成、発泡性、作業性を考慮すると共に、外観的な見栄えが劣ることのないよう設定してある。

(扉について)

前記箱本体 2 4 に回動自在に配設されて、前記フロントパネル 2 5 の配設位

置より下方に画成されている前方開口部 2 4 b を閉成可能な扉 2 6 は、発泡断熱材 5 3 を充填させる充填空間を内部画成するよう中空に合成樹脂成形されたものである。この扉 2 6 の後面には、箱本体 2 4 の前方開口部 2 4 b を圍繞するドアパッキン 5 4 が配設され、該パッキン 5 4 の上部が、フロントパネル 2 5 の前記当接部 3 8 e に前面から当接するよう構成される(図 1 2 参照)。なお、ドアパッキン 5 4 における箱本体 2 4 の両側壁 2 4 a, 2 4 a 前面(側板 3 3 の前折曲部 3 3 b 前面)に当接する両側部には、ゴム磁石(図示せず)が埋設され、該磁石により扉 2 6 を箱本体 2 4 の閉成位置に保持するようになっている。

前記扉 2 6 の上部には、前後に離間して幅方向の全長に亘って延在する前方リブ 5 5 および後方リブ 5 6 が形成され、両リブ 5 5, 5 6 の間に溝部 5 7 が形成される。そして、前方リブ 5 5 が、扉 2 6 を開閉操作するための把手として機能する。なお、前方リブ 5 5 は、作業者が手指を掛けるのに適正な高さに設定されると共に、図 1 2 に示す如く、扉 2 6 の閉成位置においては前記フロントパネル 2 5 の傾斜部 3 8 a の下方に臨んで、前側からの操作を容易に行ない得るようになっている。また後方リブ 5 6 は、フロントパネル 2 5 の水平部 3 8 b の下方に臨み、上水切り部 3 8 d から滴下する水を溝部 5 7 内に受入れるよう構成してある。更には、溝部 5 7 は左右両側で開放し、該溝部 5 7 に溜った水、油、塵埃等を両側から落とすことができ、清掃を容易に行ない得るよう構成してある。

実施例の作用

次に、実施例に係る断熱箱体の作用につき説明する。前記断熱箱体 2 3 の箱本体 2 4 は、前記貯氷庫 3 2 の幅方向両側に、左右外方から一対の側板 3 3, 3 3 をネジ止め固定することで構成される。この場合に、各側板 3 3 の上折曲部 3 3 a および前折曲部 3 3 b の上部における開放端は、貯氷庫 3 2 の上突部

3 2 a および前突部 3 2 b に突き当てられて庫内側に臨まないようになっている。また前折曲部 3 3 b における前突部 3 2 b より下方に臨む部位においても、該前折曲部 3 3 b がハゼ折りされてその開放端が庫内側に臨まないよう構成される。従って、金属材料からなる側板 3 3 の開放端に錆が発生しても、該錆が庫内に落ちることはなく、常に衛生的に保ち得る。また貯氷庫 3 2 の突部 3 2 a, 3 2 b により側板 3 3 の位置決めが容易となる。

前記フロントパネル 2 5 は、ブロー成形によりパネル本体部 3 8 および前枠部 4 7 等を一体に合成樹脂成形されると共に、その内部に発泡断熱材 3 7 を充填発泡して構成されている。すなわち、全体が合成樹脂製であるのでパネル表面に錆が発生することはない、また発泡断熱材 3 7 にゴミが付着したり水が吸収されることはなく、菌の繁殖を防止して衛生的に保つことができる。またフロントパネル 2 5 の全てのコーナ部を R 形状とすることができるので、清掃等のメンテナンスが容易になると共に、外観的な見栄えが良好となる。更には、前記箱本体 2 4 の前方開口部 2 4 b を覆うパネル本体部 3 8 と、箱本体 2 4 の両側壁 2 4 a, 2 4 a の内方への変形を防止するための前枠部 4 7 とを一体に成形したから、部品点数を少なくすることができ、組立て工数を低減し得る。なお、発泡断熱材 3 7 を充填発泡することで、断熱性が向上し、パネル表面の露付きが好適に防止される。

前記天板 2 7 は、ブロー成形により中空に合成樹脂成形されると共に、その内部に発泡断熱材 4 8 を充填発泡して構成されている。すなわち、天板表面に錆が発生することはない、また発泡断熱材 4 8 にゴミが付着したり水が吸収されることはなく、菌の繁殖を防止して衛生的に保つことができる。また天板 2 7 の全てのコーナ部を R 形状とすることができるので、清掃等のメンテナンスが容易になると共に、外観的な見栄えが良好となる。更には、発泡断熱材 4 8 を充填発泡することで、断熱性が向上し、天板表面の露付きが好適に防止

される。

前述したようにして構成されたフロントパネル 2 5 および天板 2 7 の箱本体 2 4 への取付けに際しては、箱本体 2 4 の後面にネジ止め固定した後カバー 3 1 の引掛け片 3 1 a に、前記天板 2 7 の取付部材 5 1 に形成した係合孔 5 1 a を引掛けた状態で、該天板 2 7 を箱本体 2 4 の上部に被せる。このとき、天板 2 7 の補強リブ 5 0 における側部が、図 1 3 に示す如く、前記貯氷庫 3 2 の上突部 3 2 a を覆い、かつ天板下面が上突部 3 2 a の上面に当接すると共に、補強リブ 5 0 の下面が側板 3 3 の上折曲部 3 3 a に当接するので、当該部位において隙間が生じ難く、かつ隙間があっても嵌合構造であるから、汚れた水、油、埃、虫等が庫内に侵入するのを好適に防止し得る。また補強リブ 5 0 を貯氷庫 3 2 の上突部 3 2 a に被せることで、天板 2 7 の箱本体 2 4 に対する位置決めが簡単となる。しかも、天板 2 7 は箱本体 2 4 の両側壁 2 4 a, 2 4 a 上に載置された状態となるから、該天板 2 7 に調理機器等を載置した場合には、その荷重は前記製氷ユニット 2 9 等には加わることなく箱本体 2 4 で支持することができる。

なお、前記天板 2 7 の箱本体 2 4 への取付けに先立って行なわれる製氷ユニット 2 9 の配設の際には、前記貯氷庫 3 2 の後壁に形成した凹部 3 2 c にカバー体 3 4 が配設されるが、該カバー体 3 4 に配設される断熱材 3 5 は庫内側に露出しないから、庫内が不衛生となるのは防止される。

次に、前記フロントパネル 2 5 の係合部 4 0 を、図 1 2 に示す如く、天板 2 7 の被係合部 5 2 に前側下方から係合すると共に、前記前枠部 4 7 を箱本体 2 4 の両側壁 2 4 a, 2 4 a の間に介挿する。またパネル本体部 3 8 の取付部 3 8 c を、側壁 2 4 a, 2 4 a 前面に当接した状態で、該取付部 3 8 c をネジ止めすることで、該フロントパネル 2 5 は箱本体 2 4 に位置決め固定される。なお、フロントパネル 2 5 の係合部 4 0 を天板 2 7 の被係合部 5 2 に係合するこ

とで、該天板 27 の前部の位置決めもなされ、これによって天板 27 も箱本体 24 に位置決め固定される。なお、係合部 40 と被係合部 52 との係合によりフロントパネル 25 の上下方向の位置決めがなされ、箱本体 24 に対するフロントパネル 25 の組付け作業を容易に行ない得る。

また、前記天板 27 の前部とフロントパネル 25 の上部とは、図 13 に示すように、天板 27 の補強リブ 50 における前部が前記段部 39 を覆い、かつ天板下面が段部 39 の上面に当接すると共に、補強リブ 50 の下面がパネル本体部 38 の上面に当接するので、当該部位において隙間が生じ難く、かつ隙間があっても嵌合構造であるから、汚れた水、油、埃、虫等が庫内に侵入するのを好適に防止し得る。更に、前記パネル本体部 38 の後面側に形成した収納凹部 46, 46 に、前記貯氷庫 32 に形成した前突部 32b, 32b が収納されることで、フロントパネル 25 と箱本体 24 との当接部も収納凹部 46 と前突部 32b との嵌合構造となり、当該部位における汚れた水、油、埃、虫等の庫内への侵入は防止される。

そして、前記箱本体 24 に扉 26 を配設し、該扉 26 を閉成位置に保持した状態では、前述した如く、扉 26 の上方にフロントパネル 25 の傾斜部 38a が位置しているから、扉 26 の前方リブ 55 に前側から容易に手指を引掛けて該扉 26 の開閉を行ない得る。またフロントパネル 25 の前面に付着して流れる水滴は、前記上下の水切り部 38d, 38f を介して扉 26 の溝部 57 やドアパッキン 54 上に滴下するので、庫内に水滴が侵入して不衛生となるのは防止される。

次に、前記製氷ユニット 29 等のメンテナンスに際しては、前記扉 26 を開放すると共に、フロントパネル 25 における取付部 38c をネジ止め固定しているネジ 42 を弛み外した状態で、前記係合部 40 を天板 27 の被係合部 52 から外すことで、箱本体 24 の前方開口部 24b を開放することができる。す

なわち、フロントパネル25を箱本体24から取外す際には、前記天板27を箱本体24から取外す必要はないので、作業を簡単かつ短時間で行ない得る。従って、自動製氷機をカウンターの下方に設置している場合であっても、該製氷機をカウンターの下方から前方に引出すことなくメンテナンスを行なうことができる。更には、箱本体24の両側壁24a, 24aの変形等を防止するための前枠部47をフロントパネル25のパネル本体部38に一体成形してあるから、前方開口部24bは略全面開放し、メンテナンスを容易に行なうことが可能となる。

また前記天板27は、フロントパネル25および後カバー31の係合により箱本体24上部に位置決めされているから、フロントパネル25または後カバー31の何れか一方を箱本体24から取外すだけで天板27も箱本体24から簡単に取外すことができる。更に、天板27およびフロントパネル25の両側面にはテープが付されているので、断熱箱体23の左右両側面を壁面や他の厨房機器等に密着して設置した場合であっても、該天板27やフロントパネル25を箱本体24から容易に取外し得る。なお、前記フロントパネル25に対する社名銘板44の貼付けに関しては、前記段落し部45が形成してあるから正確に位置決めし得ると共に、外観的な見栄えも良好となる。

前述した実施例では断熱箱体を自動製氷機に使用する場合は説明したが、本願はこれに限定されるものでなく、冷蔵庫や冷凍庫等の断熱箱体として採用することもできる。またフロントパネルと天板との係合構造は、実施例の構成に限定されることなく、例えば天板に後方に向けて突設した突起(被係合部)に、フロントパネルに形成した通孔(係合部)を挿通係合させるものであってもよく、各種の形態が採用可能である。なお、天板に関しては、ブロー成形により中空に合成樹脂成形すると共に内部に発泡断熱材を充填発泡したものでなく、従来のように断熱材が別体で構成されるものであっても、該断熱材が庫内側に露出し

ないようなカバー等を取付ける処置等を施したものであればよい。

10022098・103001

請求の範囲

1. 前方に開放する箱本体の前部にフロントパネルを着脱可能に配設した断熱箱体であって、

前記箱本体の前方開口部を覆うパネル本体部と、前記前方開口部を画成する箱本体の左右側壁の内方への移動を規制する前枠部とを合成樹脂により一体的に中空成形し、その内部に発泡断熱材を充填発泡してフロントパネルを構成した

ことを特徴とする断熱箱体。

2. 前記箱本体の上方開口部を覆う天板に被係合部が形成されると共に、この被係合部に係脱可能に係合する係合部が前記フロントパネルに形成され、該フロントパネルは、前記上方開口部を覆っている状態の天板の前記被係合部に対して係合部を係脱することで前記箱本体に対して着脱される請求項1記載の断熱箱体。

3. 前記箱本体の上方開口部を覆う天板は、合成樹脂により中空成形してその内部に発泡断熱材を充填発泡して構成される請求項1または2記載の断熱箱体。

10022098.103001

要 約 書

断熱箱体であって、箱本体の前部上方にフロントパネルが着脱可能に配設されると共に、箱本体の上部に天板が着脱可能に配設される。フロントパネルのパネル本体部に、箱本体の左右側壁の変形を防止する前枠部が一体に合成樹脂成形される。パネル本体部には、天板に形成された被係合部に係脱可能に係合する係合部が形成される。

10022098-103001